

## 谷原中学校・谷原小学校・北原小学校

### 中学校区の特徴

- ・児童生徒は明るく素直であるが、学習意欲や学力の個人差が大きい。また、規律やルールに関する意識が低い傾向がある。

### 目指す児童生徒像

- よく考える児童生徒
- すすんで運動する児童生徒
- 規律やルールを守って行動する児童生徒
- 伝え合い、かかわり合うことのできる児童生徒

## I 小中一貫教育の推進

### 1 目指す児童生徒像の具現化に向けた取組

#### (1) 学力・体力の向上

- ・授業改善カリキュラムに基づく、算数、数学の授業研究及び、体育の授業研究
- ・中学教師による、小学校への算数の出前授業

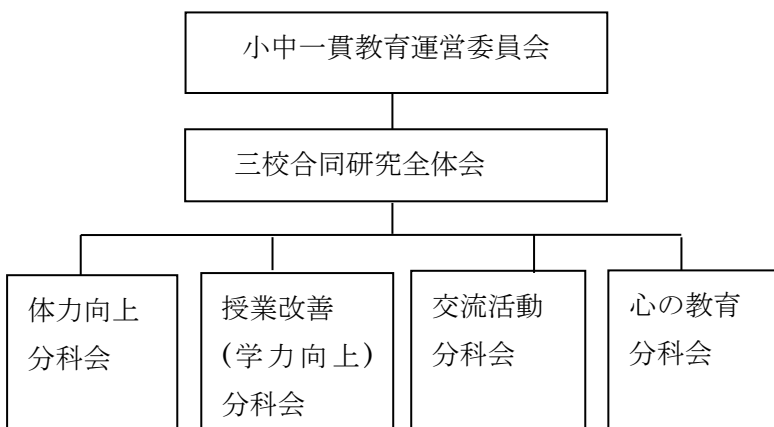
#### (2) 豊かな人間性・社会性の育成

- ・心の教育分科会による、道徳の授業研究
- ・「心の輪」の作成・掲示による、児童・生徒同士のメッセージ交流
- ・クリーン運動、なかよし給食等による異学年同士の交流

#### (3) 安定した学校生活

- ・中学校教師による小学校への英語の出前授業
- ・中学校での小学生対象の部活動体験
- ・中学校生徒会による中学校生活の紹介「中学校ってどんなところ」集会
- ・三校合同ユニセフ募金活動
- ・中学校の運動会での小学生の参加種目の設定

### 2 教育プラン推進のための推進組織



#### 主な予定（年間計画）

- 6月 第1回校區別協議会  
中学校職場体験  
小中合同研究会
- 7月 出前授業
- 9月 部活動体験（谷原小）
- 10月 生徒会による学校紹介
- 11月 第2回校區別協議会  
部活動体験（北原小）
- 1月 小中合同ユニセフ募金活動
- 2月 小中合同研究会

## Ⅱ 実践校の特色ある取組

### 1 成果と課題

#### (1) 学力・体力の向上

授業改善分科会では、算数・数学、体育の授業改善カリキュラムに基づいた検証授業を行った。小学3年の「分数」の授業において、ワークシートや板書で数の概念を視覚的に捉えさせる授業を展開した。各小、中学校とも、日々の授業で、図や表などを拡大提示することや、プリント類は児童・生徒のノートに貼れるサイズで配付するなど、視覚的に捉えさせることを意識しながら授業を進めていった。その成果として、児童・生徒が自ら図や表を用いて問題を解決しようとする姿勢が見られるようになってきた。課題としては、文章題になると既習事項が活用できないことや、自分の考えを発表する（相手に伝える）ことがうまくできないことがあげられる。小学2年の体育では、「ボール運動」の授業を実施した。



#### (2) 豊かな人間性・社会性の育成

中学校で行われている道徳の授業を、小・中学校両方の教員が観察し、協議会を行った。そのことで、道徳的価値に対する小学生と中学生の考え方の違いや共通点、道徳の授業において有効であると考えられる手立てを話し合うことができた。

また、谷原中学校の「心の輪」という掲示物を活用した、児童・生徒同士のメッセージの伝え合いの活動を参考に、小学校でも学芸会や音楽会の感想を異学年同士で交換する活動を取り入れた。そのほかにも、異学年合同でクリーン運動を行ったり、一緒に給食を食べたり、遊んだりすることで、豊かな人間性と共に、社会性も育成することができた。



今後は、これらの活動を継続して行っていくことができるよう、小・中学校の教員同士の情報交換を絶やさずにさらなる充実した取り組みを目指す。

#### (3) 安定した学校生活

小学校6年生対象のアンケートの結果から、部活動に対する関心が高いことが分かった。部活動体験に参加することで中学校生活への「不安が少なくなった」「期待が高まった」という声が聞かれた。英語の出前授業においても、同様の反応があった。

ユニセフ募金活動や中学校生活の紹介集会では、中学校の生徒会役員会が自主的に活動した。小学生を対象とすることで、分かりやすい伝え方を工夫するなど、相手の状況を把握実践する意欲も高まった。また、小学校でも中学生の説明を聞くことで、ユニセフ募金や中学校生活に対する関心がより高まった。このように、以前から取り組んでいる活動を、小中一貫教育の観点から捉え直すことで、有効性があることが改めて分かった。しかし、小中で時期を合わせること、同じ活動でもねらいに違いがある等の壁もある。今後も年間計画作成の段階から盛り込んでいくようにしていきたい。



## Ⅲ 今後の取組

- ・課題改善カリキュラムの成果を検証し、改善を図る。
- ・部活動体験などの安定した学校生活に向けた取り組みの、継続と改善を図る。